

埼玉・オハイオスカラシップ 奨学生、親善大使レポート 3月 アメリカの歴史と文化

こんにちは。フィンドレー大学では、3月のはじめに春休みがありました。しかし「春」休みという単語とは裏腹に休み中も雪が降ったり、休み明けの3月の後半でさえ若干の降雪があったり、全く春とは思えない日も多かったです。しかし気温がそれなりに高くなる日もあり、春物の服が着られるようになりました。さて今回のレポートでは、アメリカの歴史やアメリカならではの文化について紹介します。

・ 奴隷制度と Underground Railroad

今月は、春休みの間に、シンシナティーにある” National Underground Railroad Freedom Center” という博物館に日帰りで行ってきました。Underground Railroad というと日本の地下鉄のようなものを想像してしまいましたが、これは電車に関係のある博物館ではありません。奴隷制度が残っていた時代のアメリカで、奴隷制度を禁止している州やカナダに奴隷が逃げる手助けをしていた団体の名前です。博物館の展示の内容はアメリカの奴隷制度の歴史のみならず、現代でも世界で行われている人身売買に関する内容まで非常に詳しく解説してありました。非常にボリュームのある博物館で、到着してから閉館までの3時間半では、展示をすべては見ることができませんでした。

私は今学期、フィンドレー大学で” Film and Civil War” という歴史関係の授業を受講しています。この授業は、アメリカ南北戦争を題材にした映画が時代によってどのように変化しているか、実際に映画を鑑賞しながら考える授業です。奴隷制度は、南北戦争を扱う上で欠かせないテーマです。授業でも大まかな背景は扱ったのですが、今回この博物館を訪れたことで、奴隷制度についてより鮮明なイメージを持つことができました。南北戦争もまたアメリカを知る上で重要な役割を果たしていることがわかります。

アメリカでは、人種差別は南北戦争後もなくならず、公民権運動など経て今日に至ってもなお問題として残っています。こういった差別の問題や歴史的経緯から、アメリカは「自由」や「平等」という事を非常に重くとらえているように感じます。

・ ロデオ観戦

今月は「アメリカらしいものを見に行こう」ということでロデオを見に行きました。フィンドレーから車で1時間ほどの所にある、” Hat Creek Arena” というところです。小規模なスタジアムといった感じの会場が屋内にあり、入場

料は大人1人12ドルでした。ファッションの面ですら目につくのは、大人も子供も男女問わずジーンズをはいている人がとにかく多いことです。チェック柄のシャツも多かったように思います。また、カウボーイハットをかぶっている人も非常に多く見られました。さすがに牛に乗る人のほとんどはヘルメットをかぶっていましたが、中にはカウボーイハットのままロデオをしている人もいました。実際に目の前で暴れ牛を見ると、とにかく迫力があります。地面の砂が自分の方へ飛んでくることもあり、何かの間違いで牛が柵を乗り越えてこちら側に入ってくるのではないかと思いました。

合間の時間には、余興のようなイベントもありました。子供やカップルが馬のおもちゃにまたがって競争したり、子供が水のタンクを牛に見立ててロデオごっこをしたり、待ち時間もほほえましかったです。観客の年齢層は広く、さまざまな層の観客に楽しんでもらえるような工夫がしてありました。満員の会場を見ていると、ロデオはかなり人気のあるスポーツだと感じました。



ロデオ（ブルライド）の様子